

# 下檜沢ミニミニ新聞

製作者：デザインラボ  
osakada.net  
小坂田秀之  
発行時期：不定期

十二月八日（月）、宿里「ミニミニセンター」にて、小坂田夫妻主催の「新そばの宴」が開催された。今年で三度目となる本イベントは、自家製・手打ちの新蕎麦を百円（ワンコイン）で振舞う行事として、個人イベントながらも認知されつつある。当日は下檜沢のみならず、上檜沢・氷之沢・高部・鷺子など近隣地区からも来訪者が増加。総勢三十六名が会場を訪れたほか、「ひよりの」の皆さんが持ち帰り、二十食を楽しめ、約六十食が胃袋に収まった。



## 細く長く、地域をつなぐ蕎麦の縁

宿里コミセンに36名の笑顔 個人の企画から「みんなの祭り」へ

厨房は朝からお祭り騒ぎ

何より驚かされたのは、手伝いの輪の広がりだ。昨年四名だった厨房の顔ぶれは、十名近くにまで倍増。早朝から「助っ人軍団」がテキパキと手を動かしつつ、笑い声の絶えない賑やかな準備風景は、本番前からお祭りさながらの活気を生んでいた。



千円では？驚きの豪華さ

付け合わせの豪華さも年々加速している。具沢山のけんちん汁に加え、野菜天ぷら、大根酢漬、大学芋のほか、数々

「会っつきかけ」が育む

地域の絆

「一年ぶりだね」と旧交



名人の技に釘付け

振舞われた蕎麦は、主催の恵理さんの手打ちに加え、蕎麦打ち名人・小林久氏による実演打ちたてのものも提供された。鮮やかな手さばきに見学者の輪ができ、目でも舌でも楽しめる演出が会場を沸かせた。

の持ち寄り品が膳を彩り、これで驚きの百円。「千円と勘違いして来た」という客がいるのも頷ける、財布にも心にも優しい宴となった。

を温める微笑ましい姿も見られた。近隣に住んでいても顔を合わせる機会が減る中、このイベントが交流の機会を増やす一助としても一役買っているようだ。

主催者の声



小坂田 恵理

「個人の企画」から「みんなのイベント」へ

今秋は小林輝雄さんの畑もお借りし、作付面積が倍増。収穫の労力を案じましたが、刈り取りから脱穀まで近隣のお力添えがあり、無事完了できました。三年前に夫婦で始めた企画は、今ではみんなのイベントへと進化し、すでに主催は「下檜沢奥さま会」です。これからも「皆さんで創るイベント」として盛り上げていきたいだけと嬉しいです。食材提供やお手伝い、ご参加いただいた全ての皆様の優しさに、心より感謝申し上げます。